

金融もこなす事業会社へ

SMFL[®]

市場拡大を予想
航空機リースで世界2位のSMBCアビエーションキャピタルを傘下に持つ三井住友ファイナンス&リース(SMFL)。2020年に英LCIインベストメントと共同で「SMFL LCHヘリコプターズ(SMFLH)」を設立し、ヘリコプターリース事業へ



ヘリコプターリース参入

の参入を果たした。国内リース会社が本格的にヘリコプターリースを手がけるのは初となる。渡部は「ヘリコプター市場ではリースの割合は15%程度でまだニッチだ。ただ、航空機のリースの割合が高まったように、機を保有・管理しており、機体数で世界2位に浮上した。リースするヘリコプターは主に緊急医療や災害救助、洋上風力発電施設に資材を届ける搬送などの用途で活用されている。

eVTOL活用も視野

る)ヘリコプターを手がけることに、当初は社内と慎重な意見もあった」と振り返る。ただ、飛行ロボット(ドローン)、電動垂直離着陸機(eVTOL)の事業やESG(環境・社会・企業統

業界首位を目指す

SMFL航空事業開発部長の松谷栄一は「ヘリコプターリース事業ではVTOLの活用を見据えて動き出している。20年以降、SMFLではeVTOLを開発する(愛知県豊田市)に出資。加えて、SMFLH合算で約150億円の事業やESG(環境・社会・企業統



SMFLHがリースする欧エアバス製のヘリコプター

て、SMFLが出資するLCIがeVTOLを開発する米ベータ・テクノロジーズや米エルロイ・エアに先行発注をかけている。渡部は「eVTOLにおいて大手が勝つかもしいないが、種まきはしっかり進めていく」と方針を語る。

松谷もeVTOLについて「多くの顧客に価格を抑えて使ってもらえるようにすることがリース会社の使命となる」と新たな市場の創出に期待を寄せると、(敬称略)